

龍雲寺 花園会報

二十十一年お正月号

監修 細川景一 編集 細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>
○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三一三八一

TEL 〇三三四二一〇三三八
FAX 〇三三四一八八九六三

あいさつ

住職 細川 景一

皆様方には平成二十三年の新年を恙無くお迎への事と存じます。中には不幸等悲しい思いをされている方もあると思います。少しでも早く悲しみを克服して、体調に気を付けて生活して頂きたいと祈っています。

私は龍雲寺の住職に就任して三十八年、昨年十一月には満七十歳を迎えました。

中国唐代の詩人、杜甫は「人生七十、古来稀なり」とうたったけれど、昨今は平均寿命が延びたとか…。

しかし、「君見ずや、人生百年流電の如し」と、アツと云う間に人生も終わってしまします。

江戸時代後期の碩学佐藤一斎は「言志四録」の中で、

「余、三十已下は視（浅く雑に視る）の時候に似たり。三十より五十に至るまでは、観（念を入れてよく観る）の時候に似たり。五十より七十に至るまでは、察（よくよく念を入れて詳しく察る）の時候に似たり。察の時候は当に知命・樂天に達すべし。而して余の齡今六十六にして、猶お未だ深く理路に入る能わず。而るを況や知命・樂天においてをや。余齡幾ばくも無し。自ら励まざる容からず。天保丁西瓜月記す。」

過ぎ去った事は別におき、察の時代の終わらんとする。果たして、どれだけ天命を自覚して人生を楽しんでいるだろうか。あれこれ悩み苦しむ毎日ではないか！

お互いに、今年一年でも悔いの残らぬ一年でありたいですね！！

大般若会 於龍雲寺本堂

一月七日金 十一時〜御詠歌奉詠

十一時半〜法話 正午〜法要 法要後昼食

お申し込み不要 会費一家族二千元

行事予定

1月7日金 大般若会

19日水 初釜（於南薫亭）

2月7日月 開山忌宿忌5月18日に延期

28日月〜ハワイ献詠（えひめ丸・真珠湾）

3月9日水 東京教区奉詠大会（於龍雲寺）

21日月 彼岸会

末日 桜のお茶会（南薫亭）

5月9日月〜第6次四国八十八ヶ所巡拝

18日水 開山忌宿忌

30日月〜奥州名刹巡礼の旅

6月23日木〜第131回三峰榛名講

7月6日水 七夕のお茶会（於南薫亭）

13日水〜15日お盆の棚経

17日日 施餓鬼会

29日金〜31日日 龍雲寺盆踊り大会（於環七龍雲寺駐車場）

8月15日月〜第6次妙心寺お精霊送りと五山送り火

9月23日金 彼岸会

10月15日日 第8回天満敦子ヴァイオリン・コンサート（於龍雲寺本堂）

17日月〜全国奉詠大会（於妙心寺）

インド仏蹟巡拝記

細川 景一

生まれながらに飛行機が苦手で逃げ回っていたようで、初めて乗ったのも住職になってからだと記憶している。

本山の総長に就任してからはそんな事も云つておられず、一泊三日でロサンゼルス妙心寺別院にいったことも、タイのワット妙心寺や台湾にも出張したことがあります。

中国の達磨大師、臨済禅師、趙州禅師、といった祖師方の旧蹟も参拝する事が出来ました。しかし、インドの仏蹟参拝は中々実現しませんでした。飛行機は苦手、インドは遠いその思いが中々実現出来なかった大きな理由でした。しかし、昨年の二月六日より六泊八日間の日程で仏蹟参拝に修業時代の仲間二十人で行ける事が出来ました。

そもそも、釈尊は、姓はゴータマ・名はシッダールダ。ヒマラヤ山脈の麓（現ネパール）にあった釈迦国の王子として、父はシュッダーダナ（浄飯王）、母はマヤー（摩耶）の子としてルンビニーの園にて紀元前四六三年頃誕生とされ。妻ヤショーダラーとの間にもうけた一子ラーフラを残し、二十九歳にて沙門となられました。二仙人に師事するも満足せず、六年の間苦行を体験しますがさとりにいたりませんでした。山を下り尼連禪河にて身を清め、村娘スジャータの差し出す乳粥を飲み、菩提樹のもとにて七日間の坐禅瞑想し、八日目早朝、暁の明星を見て三十五歳のときに大悟されました。鹿野苑で初転法輪、即ち初めての説教を修業仲間の五比丘にし、

のち四十五年におよぶ教化活動の後クシナールで亡くなりました。

生誕地のルンビニ、悟りを開かれた成道の地のボードガヤ、初めての説法をされたサルナート、そして亡くなられたクシナールガヤを四大仏蹟地として尊崇にされています。今回その地を参拝する事となり、二月二十六日成田空港を十一時に出発、約十時間の飛行時間でデリー到着。やはり遠く感じました。

二十七日は朝からガンジー記念館・インド門等見学後、飛行機でゴランプール町の町に飛び、そこからバスで悪路を行く事六時間、ネパール領に入つてルンビニに到着。夜の八時でした。

仏蹟はインドでも発展の遅れた地域と云われるビハール州に集中しており、交通の便も悪く、毎日バスで何時間も走らなければなりません。見渡す限り菜の花が続き、それが終わるかと思うと砂糖キビの畑が続く。街へ入ると人が満ち溢れ、牛や犬が寝そべっている道路をバスは猛スピードで走る。これが「千年一日の如く大地と共に生きた人々、十一億の民の住むインドなんだと実感する」。

次の日朝より釈尊誕生の地ルンビニ苑に向う。遺跡には、数々の奉献ストゥーバに囲まれたレンガ造りのマヤー堂があり、堂内には二つの釈尊ご降誕のレリーフが奉られています。ひとつは、表面が削られてしまっていますが、紀元四世紀頃のグプタ朝期の彫刻とみられ、もう一つは、それを大理石で再現した彫刻です。中央下に「天上天下唯我独尊」と天と地とを指さされた釈尊、釈尊の足元には、ご誕生の後七歩歩まれた足元に咲いたと言う「蓮の花」が彫られています。しかし、聞けばこれが百年前までは土の中に埋もれていたと云

う。なぜだろう。

紀元前三〇〇年〜一八〇〇年頃インダス文明の発展がありました。紀元前一五〇〇年〜一〇〇〇年頃北欧のアーリア人の進出があり、所謂バラモン教の成立、ヴェーダ文学、又、ウパニシャッド哲学の完成と続き紀元前六〇〇年〜四〇〇年にかけて各地に統一国家が併立し、ジャイナ教・仏教等が成立します。しかしジャイナ教・仏教等がインド古来の宗教ヒンドウ教と対立したわけではありません。ヒンズーの教えと融合していったのです。

ヒンドウ教を一つの宗教と云うよりむしろインド古来の人々のカースト制度も含めていろいろな信仰・宗教習俗の総体をヒンドウと言ったのではないのでしょうか。仏教が飛躍的に伸張するのは紀元前三世紀頃マウリア王朝アショカ王の時代です。王は、仏教の精神に基づく政治を最上として磨崖・石柱の詔勅発布、寺塔の建立、伝道師の派遣など仏教に関する事蹟は多い。仏典の編纂（第三結集）が行われたのも王の時代だと云われています。

仏教は釈尊時代の原始仏教から部派仏教、大乘仏教へと拡がりを見せ、世界各地へと伝播しますが、その中で紀元八〇〇年頃よりアラブ人によってイスラム教が進出しイスラム王朝が次から次へと建立されます。

ついに、一五〇〇年代にはムガル帝国が建設され、インドのほとんどがイスラム化してしまします。

イスラム教は「剣かコーランか」と教えを強制するのではなくヒンドウ的なイスラム文明を創造し拡大していったのです。その過程の中で仏教寺院が破壊され仏教の教えがかえり見られる事はありませんでした。

アショカ王等々によってインド各地に建立

され造られた仏塔僧院建物は何百年の間に土・ゴミに埋もれてしまったのです。十九世紀末まで日の目を見ることはなかったのです。一八五〇年ムガル帝国が滅びイギリス領となつてイギリスの探検家カニンガムによって仏蹟が発掘するまでは本当に釈尊は実在されたのか？
そう云つた議論がなされたのも不思議ではありませんでした。(つづく)

■龍雲寺花園会主催法話会 五〇〇円 一月十五日(出)

竹貫 元勝 (花園大学教授)

「宗峰妙超禅師」 午後二時～三時三〇分

野口 善敬 (花園大学教授)

「黄檗禅の原点」 午後三時三〇分～五時

■正眼短期大学東京セミナー 五〇〇円 二月二十一日(日) 午後二時～

山川 宗玄老師 (正眼僧堂老師)

「臨濟録」

嶋野 栄道老師 (ニューヨーク禅堂師家)

会場 龍雲寺本堂

会費 五〇〇円 (当日集金)

お問い合わせ先

○臨濟宗妙心寺派東京禅センター

世田谷区野沢三二八-一 (龍雲寺会館内)

TEL 〇三-五七七九-三八〇〇

FAX 〇三-五七七九-三八〇-一

メールアドレス: zen@myoshin-zen-c.jp

HP: <http://www.myoshin-zen-c.jp/>

早朝洗心坐禅会

毎週日曜日 朝六時半～八時半

会費 無料

写経会

毎月第二土曜日 一時～四時

(但し、七月、八月はお休み)

龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせていただきます。

A (一五〇×一五〇) 永代使用料百二十五万円

B (一五〇×一四〇) 永代使用料百一四万円

A・Bとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外柵工事費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の金額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

納骨堂

(お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方達が、ご不幸があつてあわてて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようになつて来ようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の真裏に建てました。

いつもお参りの方がいらしています。

法要後のお食事について

南薫亭や書院でご法要のお食事に利用される方が増えています。タクシー代や移動時間の節約、遠方から来ていただいて、又、お食事会場までの移動が……と思いますが、南薫亭や書院は、広くてきれいだからでしょうか？。イスの席もご用意してあります。お座敷料は不要、時間制限ありません。配膳会を頼まれるか、ご自分達できちんと後片づけをお願いします。(配膳会を頼まれる方が多いです。) お飲み物は、酒屋さんから直接届けてもらいます。お弁当は、泉仙、一心、金寿司、つるや寿司……など。他にお知り合いのお弁当でもどこでもかまいません。パンフレットはお寺にあります。引出物などもお寺に直接お送り下さい。お預り致します。

ホームページ開設のお知らせ

○妙心寺派宗務本所 公式ホームページ

URL <http://myoshin.com/>

○龍雲寺

URL <http://homecatv.ne.jp/r/ryuuninji/>

是非一度アクセスして下さい。

募集中!!

○第六回妙心寺と五山送り火の旅

八月十五日(月)～十七日(水) 二泊三日

会費七万二千元 龍雲寺集合・解散、新横浜等新幹線の駅、現地集合可

妙心寺でのお精霊送り、阿じろさんの五山送り火の精進料理(ミシユラン星一つ)妙心寺花園会館の屋上から送り火を拝めるので疲れません。ツイン・ベッドでバス、トイレ付、シングル・ルームや和室も大浴場もあります。涼しい貴船の川床料理や写真友禅染めのTシャツ作り等毎年趣向をこらしています。

暑い京都を出来るだけ涼しく感じる旅の企画にしています。

※ いずれも定員になり次第切りめますのでお早めに。お子様とご一緒に、また、お一人様でも安心してご参加下さい。何でも直接お寺にお訪ね下さい。

普段着のお茶会

毎月第三水曜日 南薫亭のお茶室で。

会費は千円(お弁当代) お申し込みは Tel
・ Faxで三日前迄にお知らせ下さい。

○ 頂戴物のお菓子と果物で気楽なお茶会です。初釜、桜のお花見の茶会、七夕飾り等四季折々の楽しさを味わいます。流派は問いません。裏千家の先生が来て下さいますので少しづつ指導していただけます。

編集後記

○新しい年を迎えられ皆様いかがお過ごしですか? ○昨年六月に兄の松原哲明を、一昨年の七月には父の松原泰道と母を亡くし、同じような長い、お悔やみの言葉を集中して受けた私は「大変でしたね。体に気を付けて下さいね。」の一言が一番有り難いと感じました。○実家が喪中でも、龍雲寺の仏様のお供えのお餅を毎年プロ級の腕前で作ります。○大般若会のお汁粉のお餅は、お供えのお餅を水餅にして、つきなおし柔らかい、のし餅にしてお出ししています。○龍雲寺子ども会の餅つき大会は毎年百人以上来られます○除夜の鐘も千七百人位来られ、一人一回ずつ鐘をつかれますので百八つでは、ありません○元旦には龍雲寺の金色の獅子舞がキリスト教の老人ホームへ。五日には野沢、下馬等へ。獅子

舞のポスターは私が描きました○四国八十八ヶ所巡拝は妙心寺の老師様方や住職と巡拝。奥州観音巡礼と名刹の旅は今年の秋に結願します○妙心寺と五山送り火の旅も好評で一昨年から、お孫さんや、お子さんと参加される方が増えました。○昨年の八月に龍雲寺で全国寺庭婦人講習会があり百四十二名の参加があり、御詠歌講習会も盛会に終わりました。バスやホテル等の手配は私がさせて頂きナイトツアーで東京巡りも素敵でした○御詠歌の全国奉詠名古屋大会は三十八名で参加。素晴らしい得点でした。帰りは徳川美術館や御殿場で温泉と鍋料理で打ち上げ。御詠歌のおかげで肺活量も増え皆元氣です。男性の入会もお待ちしています。楽しいですよ! ○今年の春には妙心僧堂から次男の晋輔が戻って来ます。こんなに長く僧堂に行くとは思いませんでした、三十二歳になります○住職は総長をしていた十二年間大好きな「水戸黄門」がゆっくり見られず、龍雲寺では毎晩テレビを見ていました、今はテレビに飽きたようです○十年近く書生さんで居た後藤さんが静岡のお寺の娘さんと結婚しました○加藤君は昨年春に妙心僧堂へ。早川さんと坂本さんが新しく書生さんに○今年は会報を真面目に出します! 今年もよろしく願います。

龍雲寺 花園会報

二十十一年お盆号

監修 細川景一 編集 細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>
○龍雲寺 URL <http://homecatv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三三八一

TEL 〇三三四二一〇二三八
FAX 〇三三四一八八九六三

いあいさつ

住職 細川 景一

「光陰矢の如く」と申しますが、又お盆を迎えました。

「おん墓の石をなでおり幼くて抱かれ父の腕思いて」

吉井勇さんの歌だったと思います。お盆は人それぞれが亡き人を思い振り返る時です。

まず今度の東日本大震災によってお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表し、被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

六月に仙台、石巻地方を見舞いに寄せて頂きましたが、まだまだ想像を絶するさんざんたる状況でした……

陸前高田市のある住職さんの手紙の一部です。
あの日はまるで映画を観ているような信じられない光景が次々と起きました。檀家さんの家がたちまち流れ出しあつと言

う間に町は無残な姿となりました……

家をなくした方々がお寺だけでも約七十七名の方があり避難生活をされています。

これから先の事は考えずとにかく今日一日を生きることに皆で頑張っております。

被災された方々が一日も早く元の生活に戻れる事を祈っています。

さて、私事ですが今年四月より京都の花園大学の学長職を受けざるを得なくなり就任しました。本山の総長職とは違い一週間の内二、三日出校しています。全学生二〇〇〇人程度で文学部、社会福祉学部の小規模な学校ですが難しい時期で苦労しています。自分にとって宗門に対して最後の御奉公と考えて一生懸命努めさせて頂いております。何かと皆様方は御迷惑をかけると思いますが御寛恕下さいます様。

さて、今年晋輔禪士が十年ほどの修行を終えて帰山、四月一日付けを以って副住職になり住職交代の準備に入りました。まだ未熟者ですが「新命さん」と呼んで、ご法愛の程お願い申し上げます。

行事予定

お盆の棚経

7月13日(水) (15日まで)

17日(日) 施餓鬼会

29日(金) 31日(日) (於環七龍雲寺駐車場)

龍雲寺盆踊り大会

8月15日(月) 17日(水) 2泊3日

第6次妙心寺と五山送り火の旅

9月23日(金) 秋季彼岸会

10月15日(土) 第8回天満敦子ヴァイオリン・コンサート(於・龍雲寺本堂)

18日(火) 全国奉詠大会(於・妙心寺)

24日(月) 奥州観音巡礼2泊3日

11月7日(月) 第6次四国八十八ヶ所巡拝

孟蘭盆会大施餓鬼法要

七月十七日(日)

午前十一時 御詠歌奉詠

午前十一時半 法話

正后 法要

※お食事をご用意しています。猛暑の中十分気を付けてお参り下さい。

インド仏蹟巡拝記(二)

細川 景一

ルンビニ参拝を終え、又、バスで南下します。ゴラクンプールの街を通り過ぎクシナガラに向かいます。車窓は前日と変化はない。時々レンガ焼工場・砂糖搾り場等が見受けられる。砂糖の搾り場では究極の工コを見る砂糖キビを刈り葉っぱを取り外し幹だけを車一パイに積んで搾り場に持ち込む機械ではなく、手動の搾り機を通して搾るわけです。その汁を煮詰めて砂糖を作るのですが、その燃料は砂糖キビの搾りカスを干して使うのです。砂糖を作った後、何も残らない。誠に恐れ入った話です。

目の前に広がるクシナガラ村は千四百年前とほとんど変わりありません。

小さな寒村です。釈尊がこの地で入滅されると聞いた阿難尊者はマカダ国、バイシヤリ国を始め栄える国が数ある中でどうしてこんな貧しい国で入滅されるのですかと聞くと「この地は因縁深い国」と言われて二本の沙羅の木の間、右脇を下に頭は北に向かわれ静かに涅槃に入られたそうです。

バスはルンビニを出発して七時間やつとクシナガラ村の釈尊入滅の地に到着です。沙羅林の木立の中に入ると堂内に五世紀頃 Gupta 王朝時代造られた、六メートル程の涅槃像が横たわっておられた。鍛冶屋のチュンダが供養した食べ物で病にかかれ八十歳でこの地

で入滅されたと思うと釈尊を身近に感じて不思議な思いを禁じえませんでした。

涅槃像のまわりには、大勢に信者さんが取り囲み、思い思いに経文を唱えていました。

最後の説法地であった「釈尊説法堂」、火葬されその遺骨が八等分された場所と伝えられる荼毘塚等を拝してこの地を後にしました。

次の日、朝早く出て百九十一キロ先のベナレスに向かうバスの車窓は相変わらずの風景で、菜の花、麦の畑が続き、町に入ると人、人の連続です。ガンジス河に沿って先ずサールナートに向かつて走る。

サールナートは二五〇〇年前に釈尊が成道の後初めて説法を行った神聖な地です。紀元三世紀頃アシヨカ王は仏教に改宗の後、この地を訪れた記念にアシヨカ王柱と呼ばれる石柱を建てますが、その石柱が今に伝わっている。

その柱頭には四頭の獅子が背中合わせに坐るデザインで現在のインド国章となっています。サールナートを後にして一時間でベラルスに到着、ホテルに投宿。翌日早朝五時半、まだ暗い内にバスで聖なる河、ガンジス河の「沐浴場」に向かう。人、人の雑踏です。聖なる河、ガンジス河が悠々と流れています。大勢の人達が沐浴しながら河の向こうに昇りくる太陽に合掌して祈る、鈴がふり鳴らされ、ドラが鳴り響く、祈りの声がひととき大きくなる、何を祈るのだろうか……。

その日は見る事が出来なかつたけれど、岸辺で死を待つ人々や遺体を焼く人々を見る事があるそうです。

これ等はヒンドゥー教の「業、輪廻」の観

念とその「浄」の儀式だと云われている。業(カルマ)は「為す」「行なう」「つくる」を意味する「行為」の意味で、人が身体(身)、言葉(口)、心の動き(意)という三つの面において行為をすれば、そこに必ず行われた行為の薰習(余力)のようなものが残り、それを「業」といい、その業がその行為をした人自身の次のあり方に影響を与えるのです。それはこの世の場合もあるし、来世の場合もあると云います。この様な、善因の結果として善果を受け、悪因の報いとして悪果を受けるという因果応報説は、ヒンドゥー教の人生観・生死観の核心をなすものです。

ヒンドゥー教の修行や宗教儀礼は、この業・輪廻の束縛から自分自身を解き放つために行われるものであり、ヒンドゥー教においては、とくに聖河ガンガーで沐浴することが最も功德があると信じられています。ガンジス河の水に触れるだけであらゆる罪や穢れが浄められ、解説に導かれると信じているのです。

しかし、聖なる河と云えどもそれほど清らかな川ではありません。失礼だがゴミも沢山流れている、時には焼け残った遺体も灰と一緒に流れてくると云われています。その中で沐浴、沐浴する事によって清濁を超越していると云っても過言ではありません。

祈ることによって人々は絶対的なものと触れ合う、それが人々の救いなのかもしれせん。ヒンドゥー教は特定の開祖・教典を持たず教団として組織されていません。いろいろな風習・儀式がありますが、この事だけは共通性をもっている様です。

■第6次四国八十八ヶ所巡拝

(五月九日～十二日)

今回で80番まで打ち終わり、あと少しで結願になります。住職は初参加で第7次は副住職が参加予定です。結願後は高野山と妙心寺にお参りします。第1次から今回で180人近い方々が結願されます。皆様もぜひ！



四国八十八ヶ所巡拝

■第1次奥州三十三観音巡礼

(五月三十日～六月二日)

被災地の岩手・宮城県の妙心寺派の寺院等に皆様からの義援金をと龍雲寺からの、お見舞金を直接お届けして来しました。私達より先に副住職は花園大学の学生さん37名と大槌町へボランティアに行っていました。副住職よ



奥州三十三観音巡礼 (於：中尊寺)

りお年寄りの参加も多いのでショックを受けるので海岸付近には近づかないようにと注意を受けて行きました。般若心経と追善の御詠歌を、各札所でお唱えさせて頂きました。十月に結願します。

早朝洗心坐禅会

毎週日曜日 朝六時半～八時半
会費 無料

写経会

毎月第二土曜日 一時～四時
(但し、七月、八月はお休み)

募集中!

第8回天満敦子ヴァイオリン・コンサート
十月十五日(土) 午後三時 受付・整理券配布
会費三五〇〇円(当日集金) お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司付。本堂でイス席お申し込みはTel・Faxで龍雲寺まで、定員になり次第第8回切ります。中学生以上受付ます。

ホームページ開設のお知らせ

○妙心寺派宗務本所 公式ホームページ

URL <http://myoshin.com/>

○龍雲寺

URL <http://home.catv.ne.jp/rv/ryuuninji/>
是非一度アクセスして下さい。

募集中!!

○第八回妙心寺と五山送り火の旅

八月十五日(月)〜十七日(水) 二泊三日

会費七万二千元+講習会費七千八百円(お

数珠・匂い袋)

龍雲寺集合・解散、新横浜等新幹線の駅、
現地集合可

今年の送り火の薪は、津波に耐えた「奇跡の一本松」で知られる岩手県陸前高田市「高田松原」の流された松から作った薪が「京都の五山送り火」に奉納されました。被災者の方々が薪の肌を復興への願いを書き込んだ特別の物です。五山送り火は八月十六日夜に祖先の霊を送り出す為、山々に「大」「妙法」などの文字を火で浮かび上がらせる行事です。今回で五山送り火の旅は、しばらくお休みを頂きますので、ぜひご参加ください。

妙心寺でのお精霊送り、阿じろさんの五山送り火の精進料理(ミシュラン星一つ)妙心寺花園会館の屋上から送り火を拝めるので疲れません。ツイン・ベッドでバス、トイレ付、シングル・ルームや和室も大浴場もありです。涼しい貴船の川床料理や写仏、お数珠や匂い袋作り等毎年趣向をこらしています。

暑い京都を出来るだけ涼しく感じる旅の企

画にしています。

※定員になり次第〆切りますのでお早めにお子様とご一緒に、また、お一人様でも安心してご参加下さい。何でも直接お寺にお尋ね下さい。

禅・仏教公開講座

花園大学と正眼短期大学の教授による講座です。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。

7月31日(日) 正眼短大公開講座午後二時〜

正眼短大学長・山川宗玄老師

横山紘一先生

11月19日(土) 花園大学禅・仏教講座

「法燈国師無本覚心」 中川良信師

「笑隠大訴と蒲室疏法」 西尾賢隆先生

会場は龍雲寺本堂 会費五百円(当日集金)

・お申し込み・お問い合わせは

臨済宗妙心寺派東京禅センター

Tel.03-5779-3800 Fax.03-5779-3801

編集後記

暑い日が続きますが皆様いかが、お過ごしですか? やつと住職と新命が戻ってきたのに住職は学長に、新命は大学院生になり二人は京都に行ったり来たりで私の留守番も続きそうです。〇早いもので両親の三回忌と兄の一周忌を終え、七夕の七月七日は母の祥月命日です。分骨してある妙心寺の涅槃堂でも法要して頂

きました。〇今年の五山送り火は高田松原の津波で流された松を薪にして送り火用に奉納された特別な松明で送り火がされます。こんな事は二度とないと思います。ご一緒にお参りしませんか? 〇来年は第七次四国巡拝と第三次西国観音巡礼を考えています。秩父三十四坂東三十三・西国三十三で百観音巡礼になります。〇今年は龍雲寺で二つ仏前結婚式があり両家のご先祖様の前で挙式をしたいと言われ嬉しく思いました。本堂での結婚式には、お友達も沢山来られます。〇お施餓鬼会のお食事は前日からお手伝いの方々が来て下さり刻み物や器等の準備をして下さり有り難いです。例年通り、ちらし寿司を考えていますが、当日の朝私が全ての、ちらし寿司の具を六百三十人分煮るので猛暑の中でガスのそばで大変なので生姜ご飯に変更しようかな? と思っています。包丁を研いで下さる方々や当日の洗い物や片付けの皆様感謝しています。〇猛暑の中植木も大変だと思い枯れてしまうと嫌なので、お風呂の残り湯や台所の使用済みの水を植え木にまいています。皆様も街路樹や近所の木々にも水をあげて下さい。お願いします。〇住職・新命・書生さん達・太輔一家・蘭子・貴子・山内一同暑さに負けず? 元気にしています。おかげさまで。猫四匹と犬二匹も元気です。熱中症に気を付けて。要子

龍雲寺 花園会報

二十十一年秋彼岸号

監修 細川景一 編集 細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>
○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三一三八一

TEL 〇三―三四二一―〇二三八
FAX 〇三―三四一八―九八六三

いあいさつ

住職 細川 景一

暑い夏も終わりに近づいています。境内では蝸が美しい声で鳴いています。もう彼岸も間近かです。大震災の余震がひんぱんに続き落ち着かない毎日です。

皆様方には、お元氣にお暮しの事と思います。拙寺での日曜日、朝の洗心坐禅会は毎回四、五十名の方が参加され休む事なく、三十余年も続けて来しました。

文明の発達した現代で、日頃の雑踏、塵埃の中で、私達が失った自分の心を静かに坐して、もう一度振り返り、自分自身を取り戻し、禅定力を養って、何ものにも動じない力をつける事は、自分の人生を有意義ならしめる必須の条件ではないでしょうか。

此の坐禅会は修行でも又、人生相談所でもありません。皆様が自由に来られて、鬱蒼と

繁る林の中、鳥の囀る、閑静な境内で、静かに坐して自分の心に自分の課題（悩みや、苦しみ）を問いかけて、それぞれの課題を解決して頂く会です。

他人から教えられた解決方法は本当の解決ではありません。「他は是れ我にあらず」

自分で苦しみ、答えを出さなくては、役に立ちません。

洗心坐禅会の主旨です。「禅」を学んでみませんか。

秋季彼岸会法要

於・龍雲寺本堂

九月二十三日（秋分の日）

正后、御詠歌奉詠

午後十二時四十五分、法話

本山派遣布教師

午後一時三十分、法要

※手作りのおはぎと、お漬物をご用意しています。残暑の中、十分お気を付けて、お参り下さい。

行事予定

9月23日(金) 秋季彼岸会

10月15日(土) 第8回天満敦子ヴァイオリン・コンサート（於・龍雲寺本堂）

10月18日(火) 1泊2日

10月23日(日) 27日(木) 4泊5日

11月7日(月) 10日(水) 3泊4日

11月28日(月) 花園流青鳳会東京公演15時より

（於・成城ホール）龍雲寺支部の御詠歌も出演（前座）無料

12月中旬 龍雲寺子ども会餅つき大会

12月31日(土) 除夜の鐘（甘酒も出ます）

1月7日(土) 大般若会

お願い

先般来お話をさせて頂いておりますが、今回の東日本大震災は臨済宗妙心寺派の宗門にとっても大被害をこうむり同じ妙心寺派壇信徒である花園会員にも多くの犠牲者が出ました。死亡、行方不明の方が一千人余り、全壊家屋は三千戸余り、半壊・部分壊は七千余戸を数えます。

つきましては全国の花園会をあげて被災されました会員の方々に、お見舞金をお渡しする事になりました。すでに多方面へ義援金等をお送りされている事とは存じますが、花園会員互助の「おかげさま」の精神をおくみ取り頂き、一世帯あたり二千円以上のご協力を頂ければ誠に幸甚に存じます。お手数ながら振込用紙をお使いの上、又は直接龍雲寺までお納め下されば取りまとめて妙心寺花園会本部までお送りさせて頂きます。平成二十四年十二月末日までお願いいたします。

敬白

龍雲寺壇信徒各位

龍雲寺住職

細川景一

合掌

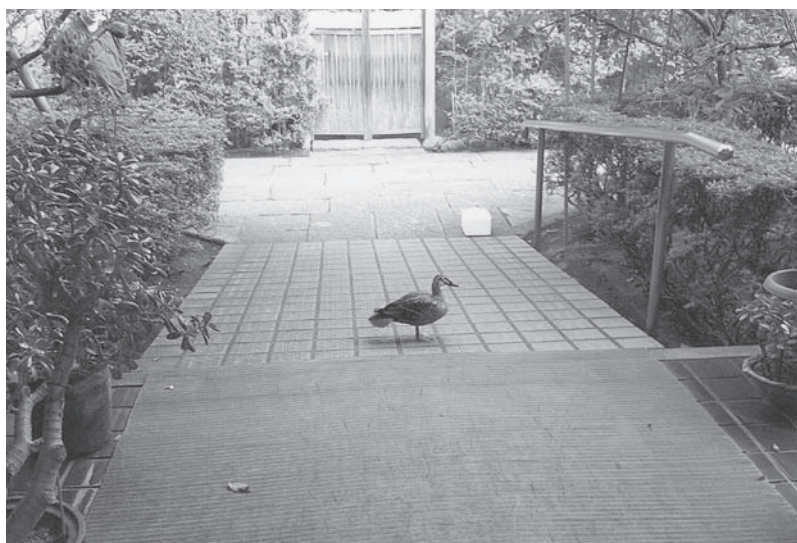
追伸

※この件につき重複してお願いしているかも知れませんが、その節はご寛恕されます様。

※三月の彼岸会の折に頂きました二十万円余の義援金は本部に寄託済みです。

鴨が玄関に来ました!

七月初旬に龍雲寺の玄関に歩いて来まして。お水をあげても飲まないの、キャット・フードを与えたら三十センチ位まで近づいて来て食べていました。どこから来たのでしょうか? 残念な事にネギは、しよつて来ませんでした。・・・。



第六次 妙心寺五山送り火の旅を終えて

今回は被災地の薪で五山の送り火と思っていましたが残念でした。妙心寺花園会館に宿泊すると特典で涼しい屋上から大文字と左大文字を拝む事が出来て人混みで疲れる事もありません。三十三名の皆様のご参加で猛暑の京都と言っても東京の暑さと同じ位でした。出来るだけ疲れない旅を企画しました。初日は奈良の東大寺様で大仏様の台座の所まで長老様ご夫妻のご案内で特別拝観させて頂き皆様感激されていました。二月堂近くの茶店で、かき氷を食べて体を冷やし夜は貴船の涼しい川床で地鶏のすき焼きでした。今回も妙心憎堂の老師様・聖澤院の老師様と住職も同席して下さり楽しい夕食でした。法堂でのお精霊送り、管長様ご導師の団体参拝・早朝から沢山のお参りの方々が来られ、御詠歌が奉詠されていきました。近くの花の寺で蓮の花の鑑賞後の朝粥、阿じろさんの精進料理の暖かい蓮のご飯が蓮の葉に包まれて、とても美味しかったです。写仏・写経と講習会は安田念珠さんのお数珠と松栄堂さんの匂い袋作りは涼しい部屋で、息子さんやお嫁さんの為にお数珠を作られている方もありました。花園会館に連泊なので暑い時は、お昼寝タイムも作りましたので熱中症も具合の悪い方も出ませんでした。今回で五山送り火の旅の企画をお休みするとお知らせしましたら、皆様からぜひ続

けて欲しいと言われ、来年も続けるつもりです。お子さん達の参加も増え、夏休みの良い思い出と夏休みの宿題にもなる講習会の作品作りもと考えています。今まで和菓子作りや友禅染めのTシャツ作り等好評でした。続ける以上皆様に楽しんで頂ける企画を考えますので、ぜひ皆様、来年の妙心寺・五山送り火の旅にご参加下さい。八月十五日～十七日の二泊三日です。お楽しみに！

禅・仏教公開講座

花園大学の教授による講座です。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。

11月19日(土) 花園大学禅・仏教講座

「法燈国師無本覚心」 中川良信師

「笑隠大訴と蒲室疏法」 西尾賢隆先生

会場 龍雲寺本堂

会費 五〇〇円(当日集金)

お問い合わせ先

○臨済妙妙心寺派東京禅センター

世田谷区野沢三三八一(龍雲寺会館内)

TEL 〇三三五七七九一三八〇〇

FAX 〇三三五七七九一三八〇一

メールアドレス: zen@myoshin-zen-c.jp

HP: <http://www.myoshin-zen-c.jp/>

早朝洗心坐禅会

毎週日曜日 朝六時半～八時半
会費 無料

写経会

毎月第二土曜日 一時～四時
(但し、七月、八月はお休み)

龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせていただきます。

A (一五〇×一五〇) 永代使用料百二十五万円
B (一五〇×一四〇) 永代使用料百一四万円
A Bとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外柵工事費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の金額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

納骨堂

(お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方達が、ご不幸があつてあわてて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の真裏に建てました。

いつもお参りの方がいらしています。

法要後のお食事について

南薫亭や書院でご法要のお食事にご利用される方が増えています。タクシー代や移動時間の節約、遠方から来ていただいて、又、お食事会場までの移動が……と思いますが、南薫亭や書院は、広くてきれいだからでしょうか？ イスの席もご用意してあります。お座敷料は不要、時間制限ありません。配膳会を頼まれるか、ご自分達できちんと後片づけをお願いします。(配膳会を頼まれる方が多いです。) お飲み物は、酒屋さんから直接届けてもらいます。お弁当は、泉仙、一心、金寿司、つるや寿司……など。他にお知り合いのお弁当でもどこでもかまいません。パンフレットはお寺にあります。引出物などもお寺に直接お送り下さい。お預り致します。

ホームページ開設のお知らせ

○妙心寺派宗務本所 公式ホームページ

URL <http://myoshin.com/>

○龍雲寺

URL <http://home.caty.ne.jp/r/ryuuninji/>

是非一度アクセスして下さい。

募 集 中 !!

○第八回天満敦子

ヴァイオリン・コンサート

十月十五日(土)午後三時～受付開始・整理券配布。

会費は三千五百円(当日集金)

お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹巻寿司付。
会場は本堂でイス席です。バリアフリーで車イス対応のトイレもあります。受付開始前には、整理券はお渡ししません。

・お申し込みは Tel 03-3421-0238
Fax 03-3418-9863 おはがきで龍雲寺まで。定員になり次第×切ります。

○無相教会花園流御詠歌会員募集

男性・女性どちらでも可

毎月一回 須藤先生のご指導

十月十三日(木)・十一月十七日(木)・十二月七日(水) 午前十一時～三時まで

会費は無料、お弁当代六〇〇円のみ

貸し出し用の御詠歌のお道具あり、見学自由です。全員イス席で講習を受けます。(不定期)に自主練習をしています。(不定期)詳細は、いつでも龍雲寺へご連絡下さい。

○他にも龍雲寺では茶道部・囲碁の会・法声会(長唄・三味線)・つなひきチーム・かっぱれ・ヨーガ等があります。

編集後記

暑い日が続きましたが皆様いかがお過ごしですか? ○今年は四国八十八ヶ所巡拝と奥州三十三観音巡礼が結願となります。四国は毎回三十数名で巡拝しますので今回の結願で六巡りで、約二百名近い方を四国巡拝にお連れしました。来年は住職と一緒に巡拝してくれるそうです。ぜひ皆様と一緒に巡拝しましょう ○第三次西国三十三観音巡礼を来春から始めますが第一番札所が台風被害で大変なので別な札所からスタート予定です。どの旅も旅行社ではなく私が航空券や宿の手配をしています。食事やおやつにも気を配ります。

申し込みはお早目に ○親しいお檀家の方で何時も美味しい、しらたきやこんにゃくと下仁田のネギを持って来て下さるので、私がお肉は?と尋ねたら、自分で買ってくれ!と言われて二人で大笑いしました ○龍雲寺の環七にある駐車場で開かれる盆踊りは毎年三日間で三千人位来られ、夜店も出て大盛況です。子ども会107人、微笑会80人が踊りの先達をします。龍青会や龍雲寺つなひきチームや書生さん達で準備がスムーズに。上原さんをはじめ子ども会のお世話の皆様が踊りの練習から当日のお世話まで何時もよくして下さいます。 ○副住職(皆様には新命さんと呼んで頂けると嬉しいです)は大学の四年間と妙心僧堂卒

年近く居たので龍雲寺からは十四年離れていましたので最近環境に慣れて来たようです ○長男太輔家の長男泰弘四才の名前は太輔が付けたのですが、「泰」は私の父松原泰道から「弘」は弘法大師から頂いたそうで、父は弘法大師様より上になって申し訳ないと言っていました ○長女蘭子・次女の貴子は、お盆やお彼岸の時も、お寺の仕事を手伝ってくれます ○猫の杏ちゃん住職が帰宅すると鳴いて走って出迎え、夜中に住職がトイレに行く時は鳴きながらトイレの往復に付いて行きます。住職が暗がりでは転ばないように注意してくれているようです。忠猫杏ちゃんですね! ○八月中旬に住職と副住職と一緒に私の母の実家の三重県にある妙心寺派のお寺にお墓参りに行って来ました ○アークから引き取った犬のタラちゃんは、お年寄りで耳のそばで足をバタつかせても寝ています。息をしているか心配で確かめる事もありますが夜のお散歩は大喜こびで走っています。ハクちゃんは何時も首輪もしないでタラと一緒に裏庭を走りまわっていますので、散歩に連れて行くと車が来ても道の中央で座って動きません ○書生さん達をはじめ山内一同おかげさまで元気になっています。季節の変わり目です。お身体を大切になさして下さい。お元気で。